

語格指南

大矢透編輯

上

大矢透

815.

0952g

078302-001-9

815-0952g

語格指南

大矢透/著

上

M13

DAC-1929



大矢透編輯

語格指南



明治十三年  
一月十七日  
版權免許

210147



815.09527

茨城常校  
城師文

茨城武校

縣尋  
庫印

城第  
庫學

語格指南

凡例

- 一 此書固ト童蒙ヲ導クヲ主トノ故ニ專方今普  
通ノ語格ヲ説キ更ニ古言ニ遡ラズ亦敢テ俗  
語ニ及ハズ
- 一 此書強メテ古來諸名家ノ定説ニ據ルガ故ニ  
本文中敢テ異議私説ヲ挿マズ然レモ若シ止  
ムヲ得ズノ一言ヲ添フルガ如キハ之ヲ贅頭  
ニ附ス
- 一 此書甚ク紙數ノ冗繁トルヲ厭フカ爲メ諸書  
ヲ抄録スルニ當テ強メテ句ヲ折リ章ヲ斷ソ

各書凡例

ガ故ニ或ハ簡ニ失スルノ患ヲ免レズ

一此書悉ク諸名家ノ説ニ據ルト雖モ惟圖表ニ

至リテハ間亦編者ノ意匠ヲ交フルモノアリ

一此書分テ八章トシ毎章各一定ノ引書ニ據ル

今之ヲ左ニ記シ一ハ以テ編者ノ杜撰トラザ

ルヲ示レ一ハ以テ彌精ニ入ルモノヲ成就テ

探ラレメントス

第一章 詞ノ種別 專語學新書鶴峰成中ノ著言語

四種論鈴木朗ニ據リ傍田中氏及中根氏ノ

日本文典等ヲ參考ス

第二章 用言ノ活用 專詞ノ八衢本居春庭ノ著

基キ兼テ詞ノ聚教原廣道ノ著山口ノ聚活語指南

義門法師ノ著蔭路路中島廣庭ノ著詞ノ通路本居春庭ノ著ヲ參

考ス

第三章 用言ノ用格 活語指南、山口ノ聚等

ニ從フ

第四章 助辭ノ用格 万由抄北邊成和訓

聚谷川士清ノ編詞ノ捷徑鈴木重胤ノ著蔭路路、活語指南

山口ノ聚玉霞本居宜長ノ著詞ノ玉緒義門法師ノ著線分

助辭本義一覽橋守部ノ著等ニ因ル

第五章 用言自他ノ活用 專詞ノ通路ニ採

ル



レル

第二章用言ノ活用

〔贅頭〕 詞ノ活用ノ發明

〔寺〕 何段活用ト云フ

〔寺〕 四段活用圖

〔寺〕 三段活用圖 變格活用

〔寺〕 二段活用ノ一

〔寺〕 中二段活用圖

〔寺〕 下二段活用圖

〔寺〕 一段ノ活用圖

〔贅頭〕 下一段ノ活用有無ノ論

〔寺〕 活用ノ知ル便法

〔寺〕 ん或はノ附クトコロニ因テ何ノ活用ト云

フヲ辨フル方法

〔贅頭〕 率用ノ活用ハ八衢ノ説誤レル

〔寺〕

〔贅頭〕 活用ヲ知ル歌

〔寺〕 第四章用言ノ用格 ○將然言、既然言、方然言、

已然言、連用言、截斷言、連體言ノ解

〔寺〕 右ノ八言ヲ活用ニ當テタル圖

〔寺〕 連體言ノ例 ○體言ノ例 ○鑄物師、繪師ナド

ノ師字ノ義

㊦ 第二轉用言ノ體言ト合ノ形狀言入如ク用  
井ラル、例○セリト云フ辭ノ活用並ニ圖

㊧ 接斷言ノ例

㊨ 連體言ノ例○連體言ノ用格○體言ノ例

㊩ 四段已然言ノ活用○有字ハ一種異ナル活

用ナル下

㊪ 贅頭 居字ノ活用

㊫ 〆〆〆〆ノ用格○けせてへめれニ〆〆〆〆ト

連ナル定格

㊬ 第二ノ音第四ノ音ニ〆〆レヲ添フルニ注意

スベキナ

㊭ 第五章助辭ノ用格○過去現在未來ノ解

㊮ 將然言ノ助辭○む辭ノ活用○で

贅頭 何ぎリト截斷言ニ用井タル例

㊯ ト ぎトノ區別○ざれをトざらをトニ依

リぞトノ違ヒ○ぬ不字ニ段ノ活用

㊺ 〆〆〆〆ノ區別○きんせんノ區別○既然言

ノ助辭 て

贅頭 將然ノをノ結ヒ

㊻ て及たりノ活用並ニ圖○たクトせリノ區

別

㊼ けリ○けん○ま○まリトせリノ區別



季 了○き○ふを○ぬる

(贅頭) つるぬるノ別

季 方然言ノ助辭○らん○べー

(贅頭) とつるぬるノ用格

季 體言ノ助辭○主格賓格○は○も○そ

(贅頭) とつるぬるノ用格ニ附クト連體言ニ附

ノトノ別アル

季 乃○や○ウ○こそぞトこそノ別

季 て○と○にへまを○にトへノ別

季 也ノ活用圖○よりから○だにきへきノ別

別○己然言ノ助辭○を 將然言ノをト己

然言ノをノ別 とつるぬるノ別

(贅頭) 何ある人ト云フハ誤リナル

季 第五章用言自他ノ活用

季 自他活用圖

季 自他ノ誤格

季 第三他動詞及受動詞ノ活用

季 第六章形狀言ノ活用並ニ圖

(贅頭) 形狀言ノ助辭

季

(贅頭) 長く去夜ト截斷言ヨリ體言ニ連ナル

ハ誤リナリト云フハ却テ誤リナル一○惡去

一、悲志トハ言ハレヌ

② 形状言有字四段ノ活用圖

③ 第七章言語ノ起結

④ 其圖

語格指南卷上目次

語格指南上卷

大矢

第一章 詞ノ類別

夫詞ハ、宇宙ノ間ニ存在スル事物

狀等ニ互リ其數ノ浩瀚ナル殆窮リ無キガ如シ

ト雖モ、其固有ノ性質ニ依リテ之ヲ類別スル片

ハ僅ニ七種ニ過キズ、曰ク體言、曰ク代名言、曰ク

用言、曰ク形状言、曰ク接續言、曰ク感動言、曰ク助

辭、是ナリ

第一體言 此詞ハ專ラ事物ノ名稱ニ充ルモノ

故ニ名詞トモ稱スニ、今之ヲ三部ニ別テ統稱

古來吾國語ノ

分類スルモノ

北邊成章翁ハ

名義頭脚ノ四

部ニ分テ裝ヲ

事狀ノ二トシ

脚ヲ五屬十九

家六倫十二身

八隊トス、鈴木

朗本居翁門人

ハ漢字ノ形状

作用辭辭物名

ノ區別ニ據テ

體語用語助辭

形状ノ四種ト

ス、鶴峰戊申翁

語格指南

卷上

全書

ハ蘭文典ニ倣  
 言代名言連體  
 言活用言形容  
 言ノ九品ニ列  
 ヲ近時田中義  
 廉氏ハ專ラ英  
 文典ニ倣ヒ名  
 詞形容詞代名  
 詞動詞詞接續  
 詞感詞ノ七品  
 トセリ今子カ  
 用ナル所ノ分  
 類法ハ鈴木氏  
 ノ四種ニ代名  
 接續感動ノ三  
 ノ加ヘタルナ

體言、各稱體言及ヒ無形體言トス

統稱體言ハ事物ノ總稱ニ、一言能ク一種一類

ノ數物ニ通スル名トナル(故ニ普通名詞トモ

稱ス)即チ

風、雲、雨、雪、山、川、草、木、人、獸、蟲、魚、梅、櫻、桃、李、馬、牛、

犬、猫、鶯、燕、鳥、雀、鯛、鮒、類是ナリ例ヘバ山

ト云ヘバ一言ニノ世界ノ山嶽ヲ盡シ木ト云

ヘバ一言ニノ天下ノ樹木ヲ悉スカ如シ

各稱體言ハ一事一物ニ固有シテ他ニ通ゼザル

名ナリ故ニ(固有名詞トモ云ヘリ)即チ

義經、辨慶、正成、義貞、富士山、鴨河、莫邪、劔、草薙

劔、離磨墨 類是ナリ例ヘバ義經ト云ヘハ

源九郎義經一人ニ限リ離ト云ヘバ楚ノ項羽

ガ乘リシ馬ニ限レル名稱ナルガ如シ

無形體言ハ形ナクノ自一箇ノ名稱トナレルモ

ノ即チ

智、識、情、意、孝、悌、忠、信、喜、怒、哀、樂、年、月、時、日、春、秋

晝、夜、寒、暖、ノ類是ナリ

第二代名言此詞ハ一文章中ニ同シ體言ノ數箇

アル片ニ其複雜ヲ避クル爲メニ之レニ代ヘ用

ナルモノナリ即チ

吾我、已、自、汝、君、足下、及、彼、是、此、其、ノ類是ナリ

英文代名詞  
 分テ通常代  
 名詞ト人名詞  
 ニ分ツ繁雜ナ  
 ルカ故之ヲ略  
 ス

例へば源氏の兵阿部野に要をとり聞き清盛が曰く彼へ衆我へ寡我且く之で四圍に避け以て再舉て謀らんと云へル句中彼ハ源氏ノ代名我ハ平氏自ラノ代名之ハ源氏ノ兵ノ代名ナルが如し第三用言此詞ハ事物ノ舉動作用ヲ示スモノニ  
 ノ(一ニ働詞ト云フ)即チ

(犬ノ門で)守リ(雞ハ晨で)司リ(義經ハ善く)戦ふ  
 (與一ハ能く)射リ(新田義貞等)起リて(北條高時  
 で)誅を(車駕宮に)還リ(尊氏功に)誇リ(義貞で  
 て)追討せしむ(戦)利あり(正成又湊川に於て)  
 戦死をノ類是ナリ例へば守リハ犬ノ作用司

英文大形状言  
 フニニ別チ名  
 詞ヲ形容スル  
 モノヲ形容詞  
 ト云ヒ動詞ヲ  
 形状スルモノ  
 フ副詞ト云フ  
 然レモ吾國ノ  
 語格活用ノ式  
 フ共ニスルヲ  
 以テ此書ハ合  
 ノ一トナス但  
 レ言語四種兼  
 ニ從フモノナ

るハ雞ノ作用還リト誇リハ車駕ト尊氏ノ作用  
 フ示スカ如シ

第四形状言此詞ハ事物百般ノ状態ヲ示スモノ  
 ニノ之ヲ二種ニ別チ一ハ體言ノ形状ヲ示スモ  
 ノトシ一ハ用言ノ形状ヲ示スモノトス即チ

體言ノ形状ヲ示スモノ(形容詞トモ云フ)ハ

深き(川)浅き(瀬)堅き(木)猛き(心)正しき(道)空しき  
 (煙)甚しき(惡)同トキ(人)鮮けき(魚)のどけき(春)明  
 けき(心)威あり(世)大あり(國)専あり(權)美麗あり

(姿)窈窕(淑)女悠々(行)路ノ心(嚴)然

(容)貌(確)乎(議)論(觀)者(繁)然(春)霧(靄)々

ノ類是ナリ

用言ノ形状ヲ示スモノ(副詞トモ云フ)ハ

淡く見ゆり深く考ふる堅く鍛ふ正しく行ふ

空しく費を甚しく怒る明けく治るのどけく

晴る威る開くる大に治まる専ら行ふ遠く

望む確乎と定むる喟然として嘆を遂に先づ

既し斯し時し肯て強て將し並し殊し蓋抑豈

恐くハ惡ぞノ類是ナリ

第五接續言 此詞ハ詞ト詞或ハ句ト句ノ間ニ

在リテ能ク上下ノ意義ヲ連合接續セシムルモ

ノナリ即チ梅も櫻彼も是も山及び川人面よ

て(默心)泰々漢々將(近代)ノ類及ビ縦ひ故よ  
因て、由此於是然則若即但偕又加之猶ノ如キ  
皆之ニ屬ス

第六感動言 此詞ハ喜怒哀樂ニ依リ深ク心裏  
ニ感スルコト有ルトキ意ハス發スル詞ナリ即チ  
嗚呼哀しいハあ何事ぞや噫(斗筭の人)ち  
喜いややかれ者どもノ類是ナリ

第七助辭(豆爾波) 此詞ハ體用ニ言ニ副ハリテ  
其意味ヲ助成スルモノナリ而シテ其體言ニ副ハ  
ルモノヲ體言ノ助辭(一ニ名詞ノ格)ト云ヒ用言  
ニ副ハルモノヲ用言ノ助辭(一ニ助動詞)ト云フ

籍ノ助假字多クハてに以テ類ナルヲ以テ總テ是等ノ助辭ヲ呼テてにはト云フ體言ノ助辭ヲ指レテ名詞ノ

格ト稱ス  
吾國ノ助辭ト  
西洋ノ格ト其  
性質大ニ異ナ  
ルヲ考ヘザ  
ルヨリノ譯リ  
ナリ抑モ西洋  
ノ格ト云フハ  
主賓持ノ目的  
ニ從ヒ其形ヲ  
變シ或ハ位置  
ヲ替フル法格  
ノ名稱ニシテ  
格ト云ヒテ一  
種ノ文字アル  
ニ非ラス故ニ  
吾體言ノ助辭  
ト大ニ其趣  
ヲ殊ニセリ

即チ

體言ノ助辭ハ

(彼)ノ(學校)へ(行き)て(地球)ノ(惑星)の(一)あり(是)

こそ(吾)が(望む所)ふれノ類ナリ

用言ノ助辭ハ

(六人)ハ(携へ)て(擧)げ(振)り(て)自欺(り)ざらん(と)

て(欲)せ(ば)決(して)虚言(を)べ(く)ぞ(め)られ(き)

らノ類是ナリ

以上七種ノ中體言代名言接續言及感動言ハ皆

一箇一態他ノ變化無シト雖モ用言形容言及助

辭ハ其用キル處ニ從ヒ其狀態一ナラズ故ニ初

學ノ徒ヲノ屢其用格ヲ誤ラシム因テ更ニ之ノ  
次章ニ略説シ以テ聊カ其迷路ノ指南ニ供ヒン  
トス



途四段中二丁遊二丁び居二丁るや

遊二丁ぶ二丁べき時二丁も二丁ら二丁り

輪七丁で廻七丁してて遊七丁べ七丁り

食十二丁物十二丁で求十二丁めん十二丁と十二丁爲十二丁る十二丁あり

生十二丁で保十二丁ちて能十二丁く成十二丁長十二丁爲十二丁云十二丁く

日十六丁で數十六丁ふれ十六丁バ出十六丁立十六丁せ十六丁日十六丁云十六丁く

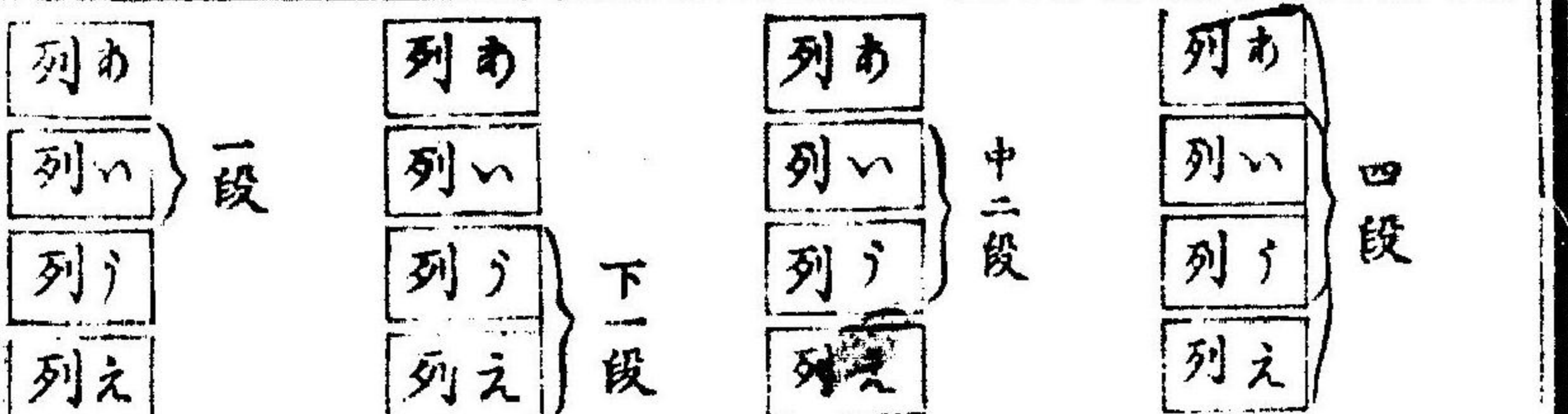
天廿一丁よ取廿一丁ぢ人廿一丁よ取廿一丁ぢ又廿一丁我廿一丁心廿一丁よ

取廿一丁づ廿一丁る廿一丁こ廿一丁と廿一丁大廿一丁あり

遊六丁ひ六丁戯六丁る六丁よ六丁宜六丁き六丁あり

其同上兒同上の同上戯同上も同上遊同上ぶ同上て見同上る同上云同上く

鳥八丁の八丁小八丁路八丁よ八丁あ八丁ら八丁て見八丁れ八丁バ八丁云八丁く



ノ如ク開遊爲取戯見ノ諸語皆其用并處ニ依リ  
 聞ハきうききききききききききト五十音カ行ノ第一音  
 ヨリ第四音マデ四段ニ轉化シ遊ハウそをウダ  
 びウそぶウそべトハ行ノ第一音ヨリ第四音マ  
 テ四段ニ轉化シ爲ハせイストト行ニテ三段ニ  
 轉化シ取ハモウもウトト行ノ第二音第三音ニ  
 段ニ轉化シ戯ハたをぶらたをぶれトラ行第三  
 音第四音二段ニ轉化シ見ハミミトトま行一段ニ  
 ぶれヲ添ヘテ轉化セリ  
 右ノ如ク轉化スルハ獨リ開遊爲取戯見ニノミ  
 止マラスノ凡百ノ用言一モ然ラサルナレ但其



性質ニ依リ聞遊ノ如ク四段ナルアリ爲ノ如ク  
 三段ナルアリ戯恥ノ如ク二段ナルアリ見ノ如  
 ク一段ナルアリ例ハバ引寫打合入ノ類ハひ々  
 んひきひくひけ、うつさんうつうつをうつせ  
 うたんうちうつうて、ふくまんふくみふくむふ  
 くめいらんいりいりいれ、ト各四段ニ轉化シ死  
 欲與論議ノ類ハ志あん志よ志ぬ、不つせん不つ  
 不つをくみせんくみくみを、ろんぜんろん  
 ころんぞぎせんぎしぎを、各三段ニ轉化シ過亮  
 閉出寄恐ノ類ハをぎをぐみちみつとちとづい  
 でソグよせよを、おをれおをる、ト各二段ニ轉化

ニ似着子、射試ノ類ハよきひい、うろみト各一  
 段ナルガ如シ  
 右ノ如キ用言ノ轉化ヲ古來詞ノ活用ト稱シ四  
 段ナルヲ四段活用トシ三段ナルヲ三段活用ト  
 シ二段ナルヲ二段活用トシ一段ナルヲ一段活  
 用トス今四段活用ヨリ一段活用ニ至ルマデ序  
 ヲ追ヒテ左ニ之ヲ圖解セシトス  
 四段活用  
 此活ハかきくけさしすせト五十音第一ノ音ヨ  
 リ第四ノ音マデ聞々ん聞き聞く聞け推さん推  
 し推を推せト活用スルト左ノ圖ノ如シ

は	行た			行さ			行か			
思 おも	持 もち	立 た	打 う	殺 ころ	推 お	寫 う	行 ゆ	聞 き	引 ひ	一段
おも	もち	た	う	ころ	お	う	ゆ	き	ひ	二段
おも	もち	た	う	ころ	お	う	ゆ	き	ひ	三段
おも	もち	た	う	ころ	お	う	ゆ	き	ひ	四段

リ	段ニテハ助辭ナキトキハ語ヲ爲サルカ故ナ	國中一段ノ下ニん字ヲ細書スルハ助辭ニメ此	行ら	行ま	行					
			以 の	取 と	入 い	止 や	讀 よ	合 ふ	言 い	遊 あ
			の	と	い	や	よ	ふ	い	あ
			ら	らん	ら	ま	まん	ま	え	そ
			の	と	い	や	よ	ふ	い	あ
			り	り	り	み	み	み	い	そ
			の	と	い	や	よ	ふ	い	あ
			る	る	る	む	む	む	ふ	そ
			の	と	い	や	よ	ふ	い	あ
			れ	れ	れ	め	め	め	へ	そ

○此段ノ活用ハ「**わ**」行「**な**」行「**や**」行「**わ**」行ニハ有ルナシ

三段ノ活用

活用ノ状態一種殊異ナル處アルヲ以テ舊ト之ヲ變格ト稱セリ

此活用ハ「**か**」行「**き**」行ニ限リ「**か**」行ハ「**こ**」「**き**」「**く**」「**な**」

行ハ「**あ**」「**い**」「**ぬ**」「**さ**」行ハ「**せ**」「**ず**」ト各三段ニ活ク「**左**

圖ノ如シ但其第三段ナル「**く**」「**れ**」「**す**」「**ず**」「**れ**」「**ぬ**

「**る**」「**ぬ**」「**れ**」「**る**」「**れ**」ハ詞ヲ添ヘテ活用ヲ助ケタルニ

テ其行ノ音ニハ關セザルナリ以下ノ各圖モ皆

之ニ同シ

か行來	第一段	第二段	第三段
こ	き	く	く
ん	き	く	れ

此三段ノ活古  
米多クハ變格  
ノ活ト稱フ今  
三段ノ活ト改  
ムル所以ハ唯  
四三ニ一ト順  
序ヲ整ハシメ  
テ欲ノナリ

罪も、無も、  
附も、等此ノ  
③行ニ属ス

欲	不つせ	不つ志	不つす	不つさる	不つせれ
き行爲	せん	志	す	する	すれ
論	ろんせ	ろん志	ろんず	する	せれ
死	い	い	い	ぬ	ぬる
な行	い	い	い	ぬ	ぬる
往	い	い	い	ぬ	ぬる

此活用ハ「**か**」行「**な**」行ニハ甚タ少ナク圖中掲クル

他ニ在ル「**な**」行ト雖モ「**き**」行ノ活用ニ至リテハ

漢字ヨリ來レル動詞ハ皆此ニ屬スルガ故ニ甚

タ多シトス例ヘバ

製せん 製し 製す 製する 製すれ

吟せん 吟し 吟ず 吟ざる 吟すれ

談ぜん 談ト 談ず 談する 談ずれ  
 判断せん 判断し 判断す 判断する 判断すれ  
 關係せん 關係し 關係す 關係する 關係すれ  
 ノ知レ

二段ノ活用

此活用ハ第二音第三音第四音三段ノ内二段ニ  
 活ラクモノニ之ヲ二種ニ分ツ一ハ第二音第  
 三音二段(即アイウエ四段ノ内中二段)ニ活ラク  
 モノヲ中二段ノ活用トシ第三音第四音二段(即  
 アイウエ四段ノ内下ノウエ二段)ニ活ラクモノ  
 ヲ下二段ノ活用トス

添四律ナトハ  
 之ヲ上ニ段一  
 稱セリ蓋レ一  
 段ノ活ヲ上ニ  
 段下一段トセ  
 ルヲ以テ止ム  
 ヲ得テリレノ

中二段ノ活用

中二段ノ活詞ハきくくくくれちつづるつれ  
 活ラクモノ左ノ圖ノ如レ

は	行 た			行 か			一段
	閉	取	落	盡	過	起	
強	と	ち	お	つ	す	お	二段
ひ	ち	ち	ち	き	き	き	
は	行 た			行 か			二段
	閉	取	落	盡	過	起	
強	と	ち	お	つ	す	お	二段
ひ	ち	ち	ち	き	き	き	

これ以下二段  
ニモ亦活キテ  
他ニウレハ聞  
カヌ入意トナ

行			行ま			行や			行ら		
延	愁	行	怨	浴	試	老	悔	報	懲	下	免
のび	うれひ	うれひ	うらみ	ゆみ	ごろみ	おい	くい	むくい	こり	おり	ちり
のぶ	うれふ	うれふ	うらむ	ゆむ	ごろむ	おむ	くむ	むくむ	こる	おる	ちる
のぶる	うれぶる	うれぶる	うらむる	ゆむる	ごろむる	おむる	くむる	むくむる	こるる	おるる	ちるる
のぶれ	うれぶれ	うれぶれ	うらむれ	ゆむれ	ごろむれ	おむれ	くむれ	むくむれ	こるれ	おるれ	ちるれ

中二段ノ活用ハあきなノ三行ニハ無レ 此活  
用ノ動詞甚タ少クノ圖中示ス所ノ外僅々ト  
トス  
下二段ノ活用  
下二段ノ活詞ハ「けくくるくれ」せす、すす、すれト  
活ラク「左ノ圖ノ如シ」

一段			二段		
あ	あ	あ	う	う	う
得	得	得	る	る	る
え	え	え	れ	れ	れ
か	か	か	く	く	く
行	行	行	くる	くる	くる
揚	揚	揚	くれ	くれ	くれ
受	受	受			
け	け	け			
け	け	け			
け	け	け			

は行	替	な行	た行	き行
算	替	東	立	失
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
ゾ	ゾ	ヅ	ツ	シ
ヘ	ヘ	ヅ	ツ	セ
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
ゾ	ゾ	ヅ	ツ	シ
ヘ	ヘ	ヅ	ツ	セ

ま行	や行	ら行	か行	こ
煖	覚	顯	枯	こ
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
ヅ	ヅ	ヅ	ヅ	ヅ
ム	ム	ム	ム	ム
ヅ	ヅ	ヅ	ヅ	ヅ
ム	ム	ム	ム	ム
ヅ	ヅ	ヅ	ヅ	ヅ



行一ノ下一段  
 のみ活く語  
 りへへへへ  
 れと活く是れ  
 あんけけりけ  
 れとソムとま  
 たく同ト活き  
 さぬあれハ五  
 二例と多ク  
 とソムとま  
 ひぐさ其故  
 ハホマ鯨も  
 とソムとま  
 見え法ハ俗  
 つねはソム  
 いふあり言の  
 訛れありん  
 もあるべし  
 ぞさて物あり  
 につきけい  
 へるハもとま

ハ國中舉クルモノ、外他ニ有ルヲナシ

以上舉クル處ノ五種ノ活用方法ヲ能ク辨へ知

リテ所有ル用言ヲ舉テ此ハ何ノ活用ナリ彼ハ

某ノ活用ナリト自由ニ之ヲ使用センニハ豫メ

先ツ左ニ示ス所ノ數項ヲ諳記セサル可カラス

第一五音ノ行列

第二五種ノ活用圖

第三一段ノ活語 着る 似る 煮る 干る 噴る 籤

る 見る 顧る 試る 惟る 鑑る 射る 鑄る 居る 以

る 率る 般る 用る

第四ノ或ハザト云フ助辭ヲ用言ニ添フルカ

うか不うる  
 ちれをけるけ  
 れとソムとま  
 お不えぞ過落  
 窪物語ニ尻ハ  
 けるとまと見  
 えとれとソム  
 ハ行四段の  
 活よてとまよ  
 う異あり語あ  
 ううよとく  
 下一段の活と  
 て一種ありて  
 くハおもとれ  
 を

若レ其語尾(往かん往かず越さん越さす)ノ

如ク第一音(わ)列ナラバ其用言必ズ四段活

用ナリ(い)列ナレバ一段ノ活語ナラサレバ

必ズ中二段ノ活語ナリ又(え)列ナルキハ是

レ下二段ノ活ナリ

第五 三段ノ活ハか行ハ來る一語ニ限りな

行ハ死ぬる往ぬる二語ニ限りさ行ハ爲る

及ビ體言或ハ字音ニ爲るヲ添ヘテ活カス

モノニ限ル

石ノ諳記既ニ了ラハ一ノ用言ヲ取り其語尾ニ

人或ハザノ助辭ヲ添ヘテ呼ビ試ムベシ若シ第



由ルハハ大イ  
一非ナリトス  
因テ今之ヲ上  
一段ノ活ニ舉  
ゲタリ

一音かきたなはまらニ附ク時ハ是レハ四段ノ  
活トシテ何ッ人何き何く何け或ハ何きん何  
何を何せト唱フルヲ得ベク第二音きちにひみ  
いり為ニ附クトキハ一段ノ活語ノ外皆中二段  
ト知り何きん何く何くる何くれ或ハ何ちん何  
つ何つる何つれト唱フバク又第四音にけせて  
ねへめえれゑニ附クキハ即下二段ト知り何け  
何く何くる何くれ或ハ何て何つ何つる何つれ  
ト唱フルヲ得ベキナリ例ハ此ニ行落馳ノ三  
用言アリテ是何段ノ活ナリヤヲ知ラントスル  
ニ先ツ其語尾ニん或ハザヲ添ヘテ呼ビ試ムル

活用ヲ知ル歌

活用のてはは  
下二段四段ハ  
一の音  
一段ノ中二段  
トハニノ音  
マキマキマキ  
マキマキマキ

ニ行ハ也クン也け也又也きんトモ也きずトモ  
スベカラズ必ズ也かん也ウビトスルノ外セシ  
方ナカルベシ依テん及ヒザノ連ナルトコロノ  
文字ハかナルガ故ニ是ハ正シク四段カ行ノ活  
語ナリト知り落ハおてんおてをおとすおつん  
皆調ハズ唯おちんおち次ト云フハ語ヲ爲シ  
且ツ已ニ請記マル一段ノ活語ニモ非ズ因テ是  
レハ中二段ノ活語ナルヲ知り馳ハせせんせせ  
だトナリテ第四音ノ元列ニ添ハルガ故ニ是レ  
ハ下二段ナリト知ルベシ  
以上ノ方法ニ因ルキハ  
あやわ三行及は行活用

口語トハ常ノ  
語レヲモフ

ノ外少シモ誤ラズ分別明亮ナリト雖モ<sup>わ</sup><sup>や</sup><sup>わ</sup>  
三行及<sup>は</sup>行ノ諸活ハ口語訛音ノ爲メニ甚タ相  
紛レ易シ故ニ左ノ數項ヲ掲ケテ之カ備ヲ爲ス  
諸生強テ之ヲ請記セヨ

第一 四段ニハ<sup>わ</sup>行ノ活ナレ故ニ口語ニテ

(違思ノ如ク)何わん何わむト言ハルベキ用

言ハ皆四段<sup>は</sup>行ノ活語ナリ

第二 生ふる戀ふ強ふ擊ふるノ外中二

段は行ノ活語ニハ他ニ紛ル、モノナク老

ゆ悔ゆる報ゆる卧ゆるノ外中二段や行

ノ活語ナレ

下等ノ  
トア  
ス

下二段セ行  
絶句ノ二  
字ヲ加ス

第三 愈ゆる謂ゆる協ゆる覺ゆる消ゆる寒

ゆる越ゆる肥ゆる榮ゆる聳ゆる潰ゆる生

ゆる冷ゆる吠ゆる見ゆる見ゆる燃ゆる崩

ゆるノ外(古言ヲ除キ)他ニ下二段や行ノ活

語ナレ飢ゆる植ゆる居ゆる蹴ゆる聳ゆる

ノ外下二段<sup>わ</sup>行ノ活語ナレ

第四 上ニ舉クル所ノ中二段<sup>は</sup>行<sup>や</sup>行ノ活

語ト下二段<sup>や</sup>行ノ活語ヲ除クノ外口語上

ニテ(仕携ノ如ク)何えん何えずト唱ヘラル

、用言ハ悉ク下二段<sup>は</sup>行ノ活語ナリ

左ノ諸語ハ以上ノ方法ヲ試ミル爲メニ各種ノ

活用ヲ混交ノ之ヲ掲ケタリ諸生宜シク五種ノ  
 活用圖ニ當テ之ヲ分類スベシ但シ其當否ノ如  
 キハ下卷ナル語格便覽ヲ搜テ之ヲ決スベシ  
 引祝、涿羨、起舊、綻歸、垂鑑、去覺、群仕、負攀、老催、  
 致續、暖窮、簸來、捨植、鑄與、束詣、眺初、行思、替愛、  
 明捕、干噴、掠取、受叶、副閉、報騷、迎向、消答、舞習、  
 教下、用恐、重寄、屬遂、清調、辨悟、拂負、傳懲、射別、  
 句約、馴生、越居、誘惑、肥。

第四章 用言ノ用格

前章ニ於テ既ニ用言ノ活用ヲ領會スルニ至ン  
 ハ漸ニ歩ヲ進メテ沓複ノ境ニ入ルモ亦敢テ諸  
 生ノ拒ム所ニ非ルヲ知ル因テ今ヨリ用言ノ其  
 用格ヲ説キ次テ助辭ノ解釋ニ及ハントス  
 抑用言ハ前章ノ活用ニ依リ各自皆將然、既然、方  
 然、已然、截斷、連體、連用、及希求ノ八言ト爲リ以テ  
 事物百般ノ動作ヲ述ヘテ足ラサルナク言ヒ  
 テ盡クルヲナカラシム  
 將然言ハ所謂未來ノ詞ニ未タ爲サ、ルヲ或  
 ハ未タ了ラザルヲ云フ詞ナリ例ハ東京

へ往かん花て見ん等ノ往かん見んノ如シ

既然言ハ所謂過去ノ詞ニノ既ニ爲了リタル

東京ヨ往き<sup>く</sup>花<sup>て</sup>見<sup>く</sup>等ノ往き<sup>く</sup>見<sup>く</sup>

ノ如シ

方然言ハ所謂現在ノ詞ニノ目前ノ事ヲ云フモ

ノナリ例へバ東京へ往<sup>く</sup>花ヲ見<sup>る</sup>等ノ往<sup>く</sup>

見<sup>る</sup>ノ如シ

已然言ハ所謂半過去ノ詞ニノ未タ全ク過キ了

ラサル<sup>コト</sup>ヲ云フモノナリ例へバ東京へ往<sup>け</sup>

バ花ヲ見<sup>れ</sup>等ノ往<sup>け</sup>バ見<sup>き</sup>バノ如シ

連用言ハ用言ニ連ナリ續ク言ナリ例へバ往<sup>き</sup>

連用言英不典  
之ヲ文詞ト稱ス

過<sup>ぐ</sup>見<sup>下</sup>ノ往<sup>き</sup>見<sup>ノ</sup>如シ

截斷言ハ次ニ續カズ截<sup>レ</sup>テ住<sup>ル</sup>言ヲ云フ例へ

ハ東京へ往<sup>く</sup>花<sup>て</sup>見<sup>る</sup>ノ往<sup>く</sup>見<sup>る</sup>ノ如シ

連體言ハ體言ニ連ナル言ナリ例へバ往<sup>く</sup>水<sup>咲</sup>

く花<sup>ノ</sup>往<sup>く</sup>咲<sup>く</sup>ノ如シ

希求言ハ所謂下知ノ詞ニノ事物ヲ他ニ希<sup>ヒ</sup>求<sup>ム</sup>

ムル言ナリ例へバ汝<sup>ハ</sup>東京へ往<sup>け</sup>庭前<sup>ノ</sup>花

て見<sup>よ</sup>ノ往<sup>け</sup>見<sup>よ</sup>ノ如シ

今其八言ヲ四種<sup>一四三ニ</sup>活用圖ニ當テ、之ヲ左

ニ示ス

希求言或ハ使  
命言或ハ添  
言

第一轉	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉	第六轉
特 終 終 終 終 終	終 終 終 終 終 終	終 終 終 終 終 終	終 終 終 終 終 終	終 終 終 終 終 終	終 終 終 終 終 終
か ち ひ み い か	き い こ せ な 中 二 段 ハ 第 二 音 き ち ひ み い	か ち ひ み い か	き い こ せ な 中 二 段 ハ 第 二 音 き ち ひ み い	か ち ひ み い か	き い こ せ な 中 二 段 ハ 第 二 音 き ち ひ み い

第一轉

圖中第一轉其語尾四段活用ニテハ第一音かき  
たはまら三段ハこせな中二段ハ第二音きちひ

みいり下二段ハ第四音けせてねへめえれ  
一段ハ第二音きにひみいりニノ皆將然言ニ用  
井ラル但レ四段及三段ノ用言ハ助辭ヲ添ヘザ  
レハ語ヲ爲サズ

第二轉

第二轉ハ其語尾四段ハ第二音き  
段ハ第二音き  
に中二段ハ第一轉ト同シク第  
四音けせてねへめえれ  
一段ハ第一轉ト同  
シクきにひみいりニノ三種ノ言ニ用井ラル第  
一既然言第二連用言第三體言是ナリ

連用言

連用言

寫一(出々)聽き入る(作り爲々)四段

體言

師守ノ義

論ト合ふ 末 鳴く 為 (損ぐ) 三段

起き(出づ) 蓄り(行く) 攀ぢ(登る) 二段

設け(立つる) 投げ(與め) 教へ(諭す) 一段

射(出さ) 着(蓄と) 見(謬る) 一段

體言 獨立スルモノト他ノ詞ヲ冠ルモノト

ノ二種アリ

透寫 微笑 海鳴 四段

寫(て取る) 笑(て合ふ) 鳴(て止む) 四段

鑄物師 繪師 此類ノ師ハ為ヨリ轉シ来レルモノニ鑄物ヲ為ル者繪ヲ為ル者ト云フナリ 三段

早起 初老 午過 中二

老(て養ふ) 報(て受くる) 取(て知る) 一段

噴(てとる) 試験(て為と) 公服 一段

又體言ト合ノ形狀言ノ如ク用井ラル、トアリ即チ

撒網 納(日) 薰(衣) 催(人) 一段

死體 仕(方) 達(物) 三段

落葉 生(物) 老(人) 假(髻) 中二

流水 失(物) 破(屋) 挑(聲) 一段

似(顔) 着(物) 坐(睡) 射(手) 一段

又一句ノ末ニ在ルキハ下ニ連續スル詞トナル即チ

太古ニ當リテ始メテ王トナル者ヲ天皇氏

為有ノ活用

ト稱シ地皇氏人皇氏相繼ギ有巢氏ニ至リ  
 テ木ヲ構ヘ巢ヲ作り木實ヲ食ヒ燧人氏ニ  
 至リ始メテ燧ヲ鑽リテ人ニ火食ヲ教フト  
 云ヘル文ノ稱シ續キ至リ作り食ヒ鑽リノ  
 如キ是ナリ尚第三轉ノ處ヲ  
合セ見ル可シ  
 之行ノ三段ノ活ナル爲ニ有ヲ合メ爲有トシ約  
 呼ノセリトシ蓋ニ爲リ冬ニヨリサカ草家作せ  
 れバノ如ク左ノ如ク活用セシムルヲアリ下ノ  
四段ノ  
 已然言前字活用ノ  
 條ヲ見合スベシ

連用 連體 已然

第三轉

一段ニハ第二音ニ  
 三ヲ添ヘケル格モ  
 アリ然レトモ古格  
 故今ハ用弁ズ

接斷言

爲有	セリ	せり	せり
爲有	セリ	せり	せり
爲有	セリ	せり	せり
爲有	セリ	せり	せり

第三轉ハ其語尾四段ハ第三音くすつふむる三  
 段及ビ中下二段モ亦共ニ第三音うくすつぬふ  
むゆる一段ハ第二音ニテ添ヘケルきるよ  
るひみるみるニノ方然截斷ノ二言ニ用弁ラル

接斷言ハ例ヘバ

第二轉ニ於テ「天皇氏ト稱シ地皇氏人皇氏  
 相繼キ有巢氏ニ至リテ木ヲ構ヘ巢ヲ作り  
 木實ヲ食ヒ燧人氏ニ至リ始メテ燧ヲ鑽リ  
 テ人ニ火食ヲ教ヘト云ヘバ各句皆相連續





酒食で薦むる人ヲ誤リテ 酒食で薦む人トシ  
 山川で隔つる路ヲ誤リテ 山川で隔つ路トシ  
 文字で忘る生徒ヲ誤リテ 文字で忘る生徒  
 トスルノ類是ナリ

體言

體言 此言ハ獨立ストハ云ヘド全ク連體ニ  
 トト云フ體言ノ添ヒタルヲ略シテ呼ビナス  
 ニ外ナラズ例ヘバ  
 人の死ぬるハ悲ト云ヘバ人の死ぬる事  
 ハ悲ト云フニ同ジク  
 劔で試むるを觀るト云ヘバ劔で試むる事  
 で觀るト云フニ同ジク

第五轉

四段已然言ノ活用

音樂で聞くヨ飽くと言ハバ音樂で聞くこと  
 ヲ飽くと云フニ同ジキガ如シ  
 第五轉ハ其語尾四段ハ第四音<sup>け</sup><sub>せ</sub><sup>て</sup><sub>め</sub>れニ  
 レテ其他ハ皆第四轉ノ<sup>る</sup><sub>れ</sub>ニ變シ<sup>う</sup><sub>れ</sub>くれ  
 くれつれふれむれぬれ<sup>る</sup><sub>れ</sub>トナシ助辭ヲ  
 附シテ已然言トナス

第五轉中四段ノ<sup>ら</sup><sub>う</sub><sup>る</sup><sub>れ</sub>ノ辭ヲ添ヘテ已然  
 ノ活用ヲ爲ス例ヘバ

聞けらん	聞けり	聞ける	聞けれ
寫せらん	寫せり	寫せる	寫せれ
打てらん	打てり	打てる	打てれ



けせてへめれ  
り引るノ連ナ  
ル定格

ノ如シ

右ノ如ク四段ニテハ第四音 **け** **せ** **て** **へ** **め** **れ** コリ

直ニウケルレト連ナル定格ナルヲ以テ遂ニ如此

スヘカラザル下二段ニマテ誤テウケルヲ添ヘ用

井ルコアリ宜ク此ニ注意セサル可カラズ今可

ト不可トヲ對照メ之ヲ左ニ示ス

繼げり繼ぐるハ 可ナリ 告げる告ぐるハ 不可ナリ

慰せり慰せるハ 可ナリ 載せり載せるハ 不可ナリ

打てり打てるハ 可ナリ 捨てり捨てるハ 不可ナリ

買へり買へるハ 可ナリ 換へり換へるハ 不可ナリ

進めり進めるハ 可ナリ 勧めり勧めるハ 不可ナリ

借わり借わるハ 可ナリ 枯れり枯れるハ 不可ナリ

右ノ外附句ツラ立タテ浮ウキ頼タカ入イルノ類ハ用井處ニヨリ四段

ニ活クキト下二段ニ活クキアリテ兩様トモニ

可ナルカ如ク思ハルレド其四段ナル片ハ決メ

附けり附るハ 句せり句せるトヤウニウケルヲ附

スベカラズ但其四段ト下二段トヲ區別スル自

他ノ活用ニ由ルナレバ尚下ノ自他活用ノ章ニ

於テ之ヲ審ニス可シ

俗語ニテハ第四轉及此第五轉ナル中二段ノ

るくれ ぶる ぶれ ぶる ぶれ ぶる ぶれ ぶる ぶれ ぶる

るくれ ぶる ぶれ ぶる ぶれ ぶる ぶれ ぶる ぶれ ぶる

第二ノ音第四ノ音ニ引相テ添ノル誤リ

下ノ下れ、あるあるれ、ト唱ヒ下二段ノうるうるれく  
 くるれくるれつるつれぬるぬれあるふれむ  
 るむれゆるむれるるれうるるれアえるえれ  
 けるけれせるせれてるてれへるつれぬるねれ  
 めるめれえるえれゑるゑれト唱フルカ故ニ往々  
 其語格ヲ誤ルニアリ例ハバ

過ぐるヲ過ぎる 生くるヲ生きる

帶ゆるヲ帯びる 明むるヲ明める

得るヲ得る 受くるヲ受ける

植うるヲ植ゑる 譽むるヲ譽める

寄くるヲ寄せる 見ゆるヲ見える

辨ふるヲ辨へる 捨つるヲ捨てる

トスルノ類ノ如シ

第六轉

第六轉ハ其語尾四段ハ第四音けせてへめれ三段ハとよせよね中二段ハ第二音きちにひみい  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

助辭ノ用格

第五章 助辭ノ用格

凡助辭ハ常ニ體言及ヒ用言ノ語尾ニ添ヘ以テ其意義ヲ助成スルモノナリ今之ヲ五種ニ分ツ  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

許ストハ可レノ類  
否ハトハ不ノ類

過去現在未來  
ノ解

ナリ助辭ハ體言助辭ノ外皆過去或ハ未來ノ時  
 有レ且ツ截ル、アリ續クアリ決スルアリ疑  
 フアリ許スアリ否ムアリ歎クアリテ其意義其  
 用格各一ナラズ(過去トハ前章ニモ云フ如ク既  
 ニ過キ去リタルト或ハ爲レ了リタルト云フ  
 例ヘバ公園の花ハ既又散リ了ト云ヘバ公園ノ  
 花ノ以前ニ散リ了リタルヲ後ニテ云フニナ  
 リ彼ハ馬ヲ乘リ了ト云ヘバ馬ニ乘リテ有ル  
 ヲ指シ彼ノ人ハ馬ニ乘リ了リタルト云ノニナ  
 ルが如ク現在トハ目前ニ在ルト或ハ爲レ有ルト  
 ヲ云フ例ヘバ彼ハ何で見らんト云ヘバ目前

村然言ノ助辭

ニ物ヲ見テアルヲ指シテ云フニナリ吾ハ東京  
 へ往くありト云ヘハ目前ニ東京ニ往クヲ自  
 ラ云フニナルが如ク未來トハ未タ來ラサル先  
 ノト或ハ未タ爲了ラザルト云フ例ヘハ月で  
 觀ん花で見ト云ヘハ月ヲ觀ヤウ花ヲ見ヤシ  
 マイト後ニ見ルト未ダ見ザルト豫ノ想像シ  
 テ云フニナルカ如シ

第一將然言ノ助辭ハ(卷末舉グル所ノ活用全圖  
 用言ノ部ニ示スカ如シ)第一轉ノ用言ニ添ヒ多  
 クハ未來ノ時ヲ有スズでぬんばまゝノ類是  
 ナリ



ぎれをトぎら  
をトニ依テを  
トノタガヒ

如此と知れば疑む  
如此と知らば疑むト

總テぎれバト已然言ニテ言ヒカクレバ現  
在ニテぞト受ケバト未來ニ云ヒカクレ  
バ同レク未來ノトト受クルヲ一定ノ格ト  
ス

ぬ

此辭ハ無字ノ意ニノぞヲ體ニ續クルキニ  
聞ウぬ<sup>レ</sup>或ハ思<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>トヤウニ用井ルナリ  
又已然言トヌルニハねトナシ思<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>バ聞<sup>ク</sup>  
ね<sup>バ</sup>聞<sup>ク</sup>ね<sup>レ</sup>トノ如ク用井ルナリ但シ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>  
ね<sup>ヲ</sup>不字三段ノ活用ト云フ

不字三段ノ活用

ん

此辭ハ漢字將ニ當リ俚語聞ウトスルノウ  
ニ譯スベシ

む

此辭ハ漢字則ニ當リ俚語ナラバ或ハナル  
キハノ意ニノ例ハ鳴<sup>カ</sup>バ聞<sup>カ</sup>バト云フガ  
如シ其用格ノ詳ナルハ已然言ノ助辭ト共ニ  
之ヲ説カントス

ま

此辭ハ日用ニ要ナラサレバ解ヲ除ク  
凡右ノ助字中ん及バヲさ行ノ用言ニ添フル  
ニ方リテ能ク注意スベキヲアリ即チ四段ニ  
テハ推<sup>さん</sup>推<sup>さ</sup>バ落<sup>さん</sup>落<sup>さ</sup>バト第一音さ  
ニん及バヲ添フベシトイヘドモ三段下二段

此を以テナル文章  
ノ末ハ必ずんま  
ハヨリせてへぬ  
れノ十二ニ結フヘ  
例ハ  
問答(知  
言(知  
言(知  
言(知  
等ノ如シ

んせんノ區

ニテハ比さん比さバ解さん解さバトハスベ  
カラズ必ス解せん解せば比せん比せばト第  
四音セニノミ添フベキナリ

目	段	段	下	段
解	解	解	解	解
解	解	解	解	解
解	解	解	解	解
解	解	解	解	解

既然言ノ助辭

第二既然言ノ助辭ハ第二轉ノ用言ニ添ヒ皆過  
去ノ意ヲ示してけるけん一フきふをぬるノ  
類是ナリ

漢字而ニ當ル

てハ竟ノ義ニノ事ヲ爲シ竟テタルヲ示ス辭  
ニノ下二段ニ活用ス又有ト結合ノ(竟有)テア  
リトナリ既ニ爲シ竟テ或ハ過キ去リタル一

て辭ノ活用

ノ決定スル辭トナル而ノたりモ亦四段一活  
用ス

段四	段二下	將然	既然	々然	連體及連言	山然
解	解	解	解	解	解	解
解	解	解	解	解	解	解
解	解	解	解	解	解	解
解	解	解	解	解	解	解

たりせりノ區

右ノたたりノ助辭ハ多ク第五轉四段活けりけ  
るせりせりてりてりへりへるめりめるれりれ  
る即已然言ト其用格互ニ紛レ易ニ左ノ例ニ依  
テ之ヲ會得スベレ

頼朝々石橋山ニ戦ひ一或ハ戦ひ一々時

語格指辨

卷上

三二

卷上





不可キアアリソハ必ズセトスベキヲ志ト  
 シ必ズ志トスヘキヲセトシ又セトスベ  
 キヲ一トスル是ナリ例ハ「記志」「顯志」「下  
 志」「起志」「ト云フベキヲ記せ」「顯せ」「下せ」  
 「起せ」「トシ論せ」「比せ」「判断せ」「感せ」「寄せ  
 」「載せ」「聞せ」「ト云フベキヲ比志」「判断志」  
 「寄志」「ナト、云ヒ又寄せて載せて聞せてトス  
 ヘキヲ寄して載して聞けてトスルガ如シ抑モ  
 是ノセ「志」及ビせて「區別」ハ下ノ用言助  
 辭活用全圖ニ示スガ如ク「助辭」ハ多ク第二  
 轉ニ在リテ四段ノ活ハ第三音「きちひみり」ヲ

受ク三段ノ「**サ**」行ハ特リ其格ヲ異ニレテ將然言  
 ニ受クルガ故ニ四段活用ハ必ズ志トシ三段  
 及ビ下二段ハ必ズセトス可ク又テノ助辭ハ  
 第二轉ニ通シテ受クルモノナリ故ニ四段及ビ  
 三段ハ一トシ下二段ハせてトス可キヲ知ル  
 片ハ其格自ラ瞭然タルベシ

段	目	段	三	段	下
一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十

此レハ俚語ノカラト譯ス可シ例ハバ鳴

7

7



ハ第三  
轉ノ助辭ナレ  
ハ必ス第三轉  
ノ用言ヲ使ケ  
テ議論を  
下ノ落つ  
得て受く  
ト云フヤキヲ  
誤リ議論を  
下ノ落つ

遊ふべしナル遊ぶべしハアソブカヨイト  
云フ意又今西京ニ在ラハ嵐山の花を觀るべ  
しナル觀るべしハミルタラウ或ハ見ラル  
或ハミルカデキルト云フ意トナルガ如レ  
此辭ハ固形狀言ニ屬ス故ニ其活用ハ形狀言  
ノ章ニ於テ之ヲ詳カニス可シ  
此レハ事物ヲ其レト顯ハレ示ス辭ニノ俚  
語ソノヤウニト譯ス即花で見るとソノ賊で  
討つと稱るノ類ナリ  
此レハ前辭ニモヲ添ヘタルモノニノ俚  
語ソノヤウニイフモト云フニ當ル

主格

ト云ヘ  
トナド云フモ  
ノ多ク謹シム  
ベレ任シ時ト  
ノ第四轉ヲ受  
クル一アリソ  
ハ備ヘカクレ  
バ必ズ破る  
ト聞ク之  
蔽ヘハ尚不顯  
ト云ヘ  
ノ如ク破る  
ト或ハ顯  
トトノ間ニ  
のト云フ文字  
ヲ入レテ備ヘ  
カクレハ必ズ  
破るト云ヘ  
トトノ間ニ  
レ得ルトキニ

第四體言ノ助辭ハ之ヲ別チテ二類トス一ハ辭  
句ノ主位ニ在ル體言ニ屬クモ二ノ之ヲ主  
格ノ助辭ト云ヒ一ハ賓位ニ在ル體言ニ附ク  
モノニノ之ヲ賓格ノ助辭ト云フ主位ニ在ル  
體言トハ一辭句中ノ首位ニ在リテ其作用能  
ク其句中ニ及達スルモノヲ云フ例ヘハ月は  
地球で回轉モト云ヘハ月ハ主位ニ在リテ地  
球で回轉モト云フハ即其作用ナルカ故ニ此  
句中ニ在リテハ月ヲ以テ主位ノ體言トスル  
ガ如シ賓位ノ體言トハ即右ノ句中ナル地球  
ノ如キモノニノ其句ノ中間ニ在リテ其作用

語格指南

長

限ルコナリ即  
小學讀本ノ卷  
一ノ一丁目學  
とさしと云々  
トアル是ナリ

一モ他ニ及達スル所ナキモノヲ云フ  
主格ノ助辭ハ即前ニ舉ケタル句中月はノはノ  
類ニノもぞのグヤグヤと皆之ト同種ナリ諸  
體言若シ此種ノ助辭ヲ踏ムルニハ悉ク主位  
ノ體言トナルモノナリ

ハ多數ノ體言中ヨリ取り分ケテ云フ辭ニ  
ノ例ヘバ梅ノ花は薰ルト云ヘバ多クノ花ノ  
中ニ取り分ケ梅花ハ薰カ強シト云フナル  
が如シ

モハ他ノ體言ト其作用ヲ一樣ニスルルニ用  
井ル辭ニノ例ヘバ是も宜ト云ヘハ外ノ物

宜シキノミナラズ是物モ亦宜シト云フ  
ニナルカ如シ

ハ體言ヲ其レ一指シ定ムル時ニ用ル辭  
ニノ例ヘバ吾庵ハ都ノ辰己爾ぞ住むト云ヘ  
バ自身ノ庵ヲ指シテ是レ此通りニ住ムナリ  
ト云フ意ナルガ如シ

ハ三様ノ意義ヲ有ス其一舉動ヲ示ス例  
ヘバ人州の來る鳥の鳴くノ如シ其二物ノ持主  
タルヲ示ス例ヘバ鶯の聲我ガ家ノ如シ其三  
形狀言ノ如キ意ヲ含ムモノ例ヘバ花の姿  
囚の身感胃の意ノ如シ

ど解本文ノ外  
尚ハ二義アリ  
一ハ般ノ義ナ  
ル誰ぞ常ふ  
んノ別ハ問  
ノ意ナル彼ハ  
何ぞノぞナリ

のダ

音各音南

長

三六

金港堂

ヤ

やハ數様ノ意義アリ人<sup>レ</sup>や來<sup>ル</sup>吾<sup>レ</sup>々行<sup>ク</sup>可<sup>キ</sup>  
 何<sup>ド</sup>やノやハ少シク疑問ノ意ヲ含<sup>ム</sup>リ回<sup>ヤ</sup>  
 愚<sup>ク</sup>あ<sup>ル</sup>ど<sup>レ</sup>子<sup>レ</sup>や不<sup>敏</sup>あ<sup>ル</sup>ノやハ歎<sup>聲</sup>ノやナリ  
 幾<sup>許</sup>あ<sup>ル</sup>や<sup>レ</sup>汝<sup>ハ</sup>如何<sup>ニ</sup>思<sup>フ</sup>へ<sup>ク</sup>や<sup>レ</sup>カド<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>  
 用言ノ助辭ナリ

ウ

ウハ強キ疑問ノ辭ナリ例ハ何<sup>ク</sup>惡<sup>ク</sup>ナ<sup>リ</sup>  
 ドノ如シ

コト

トトこそノ別

こそハ<sup>レ</sup>ニ似<sup>テ</sup>衆多ノ物ノ中ヨリ是<sup>レ</sup>ハ其<sup>レ</sup>  
 レト撰<sup>リ</sup>取<sup>ル</sup>ヤウナル辭ナリ之<sup>ヲ</sup>ぞニ比<sup>ス</sup>  
 レバ其意稍重シトス今其差ヲ詳カニ云<sup>ハ</sup>バ  
 ぞハ唯物ヲ指<sup>シ</sup>テ是<sup>レ</sup>ハ何<sup>ヤ</sup>ナリト云<sup>ヒ</sup>こ

ヲ

ト

そハ其物ヲ手ニ取<sup>リ</sup>テ是<sup>レ</sup>バカリハ何<sup>々</sup>ナリ  
 ト云<sup>フ</sup>ガ如シ  
 賓格ノ助辭ハ前ニ舉<sup>ケ</sup>タル句中地球<sup>ニ</sup>ノ<sup>レ</sup>  
 類<sup>ニ</sup>ノ<sup>レ</sup>又<sup>ハ</sup>へ<sup>マ</sup>て<sup>ニ</sup>ト<sup>ク</sup>ク<sup>ク</sup>ト皆<sup>之</sup>レニ屬<sup>ス</sup>  
 若<sup>シ</sup>諸ノ體言此助辭ヲ踏<sup>ム</sup>片<sup>ハ</sup>皆<sup>賓</sup>位ノ體言  
 トナルモノトス  
 をハ體言ノ主格體言ニ役セラル、片ニ用<sup>井</sup>  
 ル辭ナリ例ハバ<sup>レ</sup>犬<sup>ガ</sup>狐<sup>ヲ</sup>追<sup>フ</sup>ト云<sup>フ</sup>片<sup>ハ</sup>狐<sup>ガ</sup>  
 ガ犬<sup>ノ</sup>追<sup>フ</sup>トニ役<sup>ハ</sup>ル、トニナルガ如シ  
 とハ共<sup>ニ</sup>ト云<sup>フ</sup>意ニ用<sup>井</sup>ル辭ナリ例ハ<sup>君</sup>  
 花<sup>ヲ</sup>觀<sup>ル</sup>ノ<sup>ト</sup>ノ如シ

にへまで

にへまで ハ皆主格體言ヨリ事物ヲ寄セ來ル  
凡ニ用井ル辭ニノ例へハ吾<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>水戸<sub>ニ</sub>來  
る大阪まで行く東京へ行く<sub>レ</sub>よへまでノ如  
シ

にトへノ

にトへハ用格相似テ甚タ誤リ易シ抑へ<sub>レ</sub>に  
ハ<sub>レ</sub>來<sub>ト</sub>現在ノ差アリテ例へハ東<sub>ノ</sub>方へ行  
き八つ橋とソノ處<sub>ニ</sub>到れ<sub>ト</sub>云フガ如キへ  
ハ未々先へ行き着カガル<sub>ト</sub>ニ用井<sub>レ</sub>ハ巴ニ  
行き着キタル上ニ用井タルヲ見ルベシ

にハ有ト結合シテ在<sub>ナリ</sub>於<sub>ニ</sub>トナリ決定ノ辭トナ  
ル例へハ是<sub>ハ</sub>璞玉<sub>あり</sub>王義之<sub>の</sub>真跡<sub>あり</sub>ト

うら

きたら

ありニニアリ  
一ハ截斷言ヲ  
受クルモノニ  
ハ連用言ヲ受  
クルモノ世ニ  
何某トイフ人  
何ト云フ者ト  
云フマキヲ何  
某ナル人何ナ  
ル者ト云フモ  
ノ多シ<sub>ハ</sub>ハ  
本文ノ如ク<sub>ハ</sub>  
レハ場所ヲ示  
ス詞ナリ故ニ  
駿河ナル富士  
常陸ナル筑波  
ト云ハハ可ナ  
リト雖モ義經  
ナルモノ<sub>ハ</sub>朝  
ナル人ト云フ  
ハ甚タ誤レリ

云フガ如レ其活用左ノ如シ

爾 <sub>在</sub>	將然	既然	方然	連體及連言	已然
あり	あり	あり	あり	あり	あり
あり	あり	あり	あり	あり	あり

有ツトキハ主格ノ體言ノ爲メニ事物ヲ奪取

セラル<sub>ト</sub>ニナルナリ例へハ薔薇より香油  
で取る<sub>レ</sub>破山<sub>より</sub>黄金を採<sub>ル</sub>ノ如シ

此三辭ハ同一ノ意ナルが如キ  
モ亦自ラ異ナル所アリ即ど<sub>ハ</sub>俚語ニコレ  
レバカリモト云フ意<sub>ハ</sub>ハ一事アル上ニ又

一事加ハリタル意<sub>ハ</sub>ハヤハリ猶ホト云フ

意ニ近シ例ハバ心ココロノ道ヨク誠ノ道ヨクあるを  
 ト云ハバ心ココロガカリト云ハバ誠ノ道ニ叶ツタラト云  
 フト云ナリ其事ヲ夢ヨク見ルト云ハバ其  
 事ヲ晝ノ中ニ思フハカリデハナク其上ニ夢  
 ニマテ見ユルト云フニナリ彼の人々如此  
 ノセト云ハバ彼ノ人ニシヤハリ猶如此カク

已然言ノ助辭

を

將然言ノ助辭  
已然言ノをノ

第五已然言ノ助辭  
 此ハ今爲了リタルコトヲ下ニ續クル辭ニシテ  
 俚語タレバ或ハタカヲメニ譯ス甚タ將然言  
 ノをニ誤リ易シ左ニ對照メ其用格ヲ示サシ

咲サキかカをヲ咲サキククナナララババ 咲サキけケをヲ既シニニ咲サキイイタタレレババ

思シをヲ思シフフナナララババ 思シへヘをヲ思シフフタタレレババ

綻ハひヒをヲ綻ハフルフルナナララババ 綻ハれレをヲ綻ハビビタタレレババ

得トをヲ得トルルナナララババ 得トれレをヲ得トメメレレババ

諫シめメをヲ諫シムムルルナナララババ 諫シれレをヲ諫シタタレレババ

似ニをヲ似ニルルナナララババ 似ニれレをヲ似ニタタレレババ

欲スせセをヲ欲スススルルナナララババ 欲スれレをヲ欲スシシタタレレババ

例ハバ「花咲ク」をト云ヘテ花ノ咲クヲバ以前ニ  
 想像シテ云フ詞ニシテ未來即將然ノ言ナリ「花咲  
 け」をト云ハバ已ニ咲テカラ後ニ云フ詞ニシテ半  
 過去即已然ノ言ナリ故ニ上ノ一列「咲か」をノ類



ハ其下ニハ必ズんトべーを其他希求ノよけせ  
てへめれノ助辭アル用言ヲ以テ照應セザル可  
カラズ下一列「咲けむ」ノ類ハ其下ニ現在即方然  
ノ言くをつふむる及ヒくくありずつると  
り等ノ過去或ハ現在ノ助辭アル用言ヲ以テ照  
應セサル可カラズ

ト 此ハ爲了リタルトヲ反對ノ意味ニ續クル  
言ナリ

ども 此ハ前辭ニモトヲ添ヘタルナリ此辭第三  
轉ナルどもト同シ意ナルガ如シサレトモ  
自ラ其差別ナカル可カラズ例ハ「咲くと」

ども

と

例  
どもども

もト云フト咲けどもト云フヲ解釋スレハ  
咲くともハ將然言咲くをノ反接ニテ「サク  
テアラサト」云フ意咲けどもハ「サイテハア  
レド」ト云フ意ニテ已然言咲けむノ反接ト  
ナルカ如レ

第五章 用言自他ノ活用

用言ニハ上ニ説ク所ノ外尚ホ一種ノ活用アリ  
テ自身ノ作動ト他ノ者ノ作動トヲ分別ス即チ  
之ヲ稱シテ自他ノ活用に云ヘリ例ハ「驚くと」  
云ヘバ自身ニ驚クトニナリ「驚かす」ト云ヘバ他  
ノモノヲ驚カストニナリ又「退くと」云ヘバ自身

ニ退ク<sub>テ</sub>ニナリ退ク<sub>ト</sub>云ハバ他ノモノヲ退  
カシムル<sub>テ</sub>ニナルカ如シ

自他ノ用言ヲ大別ノ三ト爲シ一ヲ自動詞トシ  
ニヲ他動詞トシ三ヲ受動詞トス

自動詞ハ人或ハ物ノ身自ラ作動スルヲ云フ詞  
ナリ例ヘバ「人ガ驚ク」「犬ガ吠<sub>ウ</sub>」ノ如キ是ナリ

〔此詞ノ意義決メ他ノ人物ニ及達スル<sub>テ</sub>ナキ故  
ニ一ニ之ヲ不達動詞ト云ヘリ〕

他動詞ハ人或ハ物ノ作動ノ他ノ人物ニ及達ス  
ル<sub>テ</sub>云フ詞ナリ例ヘバ「人ガ書テ讀ム」「犬ガ狐  
を追<sub>フ</sub>ナル讀ム追<sub>フ</sub>ノ如シ即此讀ムハ人ノ作

自動詞自然言  
トモ云フ

他動詞使然言  
トモ云フ

受動詞

動ニノ書テ讀ムト云ハバ其作動ガ書ト云フ他  
物ニ達シタルナリ又狐テ追<sub>フ</sub>ト云ハバ追<sub>フ</sub>ト  
云フ犬ノ作動ガ狐ト云フ他物ニマテ達シタル  
ナリ此詞第一第二第三ノ三段ニ分カル左ノ表  
ニ就キテ能ク之ヲ辨ヘ知ルベシ

自他活用圖

自動詞	他	動	詞	受動詞
-----	---	---	---	-----

下か	中か	中か				四か	四か	四か		自物
碎 <small>くだく</small>	過 <small>あやま</small>	起 <small>おこ</small>				退 <small>あやま</small>	乾 <small>かわ</small>	驚 <small>おどろ</small>		ら
四か	四さ	四さ	一か	四か	四か	下か	下か	四さ	下の	第一
く <small>くだ</small>	あ <small>あや</small>	お <small>おこ</small>	着 <small>あは</small>	招 <small>まね</small>	防 <small>まも</small>	斥 <small>あは</small>	く <small>かわ</small>	お <small>おど</small>	獲 <small>あ</small>	て
			下さ							第二
ま下	ま上	ま下	ま下	ま上	ま下	ま下				第三
ま <small>くだ</small>	ま <small>あ</small>	ま <small>お</small>	ま <small>あ</small>	ま <small>あ</small>	ま <small>あ</small>	ま <small>あ</small>	退 <small>あ</small>		え <small>あ</small>	に
下ら	下ら	下ら	下ら	下ら	下ら	下ら	下ら	下ら	下ら	物
ま <small>くだ</small>		う <small>あ</small>	せ <small>あ</small>		ま <small>あ</small>	あ <small>あ</small>	か <small>あ</small>	お <small>あ</small>	獲 <small>あ</small>	に

	四た			下さ		四さ		下か	
	立 <small>た</small>			瘦 <small>や</small>		伏 <small>ふ</small>		逃 <small>に</small>	
四た	下た	四た	三さ		下さ		四さ	四さ	
待 <small>まち</small>	建 <small>た</small>	打 <small>う</small>	為 <small>な</small>		ふ <small>ふ</small>		殺 <small>ころ</small>	妨 <small>さ</small>	
				下さ		四さ			
				任 <small>ま</small>		遣 <small>つ</small>			
ま下	ま上	ま下	ま下	ま下		ま下	ま下	ま下	ま下
ま <small>まち</small>	ま <small>た</small>	ま <small>う</small>	ま <small>な</small>	ま <small>や</small>	ま <small>ふ</small>	ま <small>ふ</small>	ま <small>ころ</small>	ま <small>さ</small>	ま <small>さ</small>
下ら		下ら	下ら		下ら	下ら	下ら	下ら	下ら
ま <small>まち</small>		う <small>う</small>	せ <small>せ</small>		ま <small>ま</small>	あ <small>あ</small>	あ <small>あ</small>	あ <small>あ</small>	あ <small>あ</small>



満トイフ詞  
行四段ニ活キ  
みんカチ  
つみんト自動  
詞トナルモノ  
アリ

四ら	四ら	三ら	三ら	三ら	三ら	中ら	中ら			
映つる	變りたる	分るる	満みつる	折てる	切きる	免ゆる	下おろす			
四さ	三は	三か	四さ	四ら	四ら	四さ	四さ	四ら	四ら	四ら
寫うつる	うつる	別るる	充みたる	てる	きる	ゆる	おろす	給たまはる	悟さるる	授さるる
			三さ					四は	四さ	三か
			みる					たまは	論さるる	さづくる
三ま	三ま	三ま	三ま	三ま	三ま		三ま		三ま	
うつる	うつる	うつる	うつる	うつる	うつる		うつる		うつる	
三ら	三ら	三ら		三ら	三ら	三ら	三ら		三ら	三ら
移うつる	うつる	うつる		うつる	うつる	うつる	うつる		悟さるる	さづくる

		三や	三や	一や			三ま		四ま	四ま
		見みゆる	聞きゆる	情おびゆる			寤さるる		進さるる	苦さるる
四ら	四ら	一ま	四か	四さ	一や	三ま	四さ	中ま	三ま	三ま
借うつる	預うつる	みる	みる	劫おびゆる	射いる	尤おびゆる	恨さるる	勤さるる	さるる	
三ま	三か	三ま	三ま							
貸かま	うつる	みる	みる							
			三ま	三ま	三ま	三ま	三ま	三ま	三ま	三ま
			うつる	うつる	うつる	うつる	うつる	うつる	うつる	うつる
	三ら	三ら	三ら	三ら	三ら	三ら	三ら	三ら	三ら	三ら
	うつる	みる	みる	劫おびゆる	射いる	尤おびゆる	恨さるる	勤さるる	さるる	

四ら	四ら	四ま	四ま	四ま	四ま
重かきま	集りま	重かきま	集りま	重かきま	集りま
下ま	下ま	下ま	下ま	下ま	下ま
下ま	下ま	下ま	下ま	下ま	下ま
下ま	下ま	下ま	下ま	下ま	下ま
下ま	下ま	下ま	下ま	下ま	下ま

圖中舉ケタル詞ノ首ニ(四)一アルハ(か)行四段

ノ活詞(三)トアルハ(き)行三段ノ活詞(一)トアル

ハ(か)行一段ノ活詞(二)トアルハ(か)行中二段ノ

活詞(下)トアルハ(か)行下二段ノ活詞ナリ餘ノ

各行皆之レニ倣ヒテ知ルベシ

圖中第一段ノ自動詞第二段ノ第一他動詞ハ

數種ノ活用混ソ一ナラズ第三段ノ第二他動

詞ハ多ク(き)行下二段ノ活用ニシテ第四段ノ第

三他動詞ハ各自皆(き)行(ま)行ノ下二段ニ限リ

第五段ノ受動詞ハ皆(ら)行下二段ノ活用トス

圖中示ヌガ如ク自他ノ相分ル、其狀一ヲラス

ト雖モ大抵同行ニ轉ノ分ル、ト(き)行ニ轉ノ分

ル、ト(ら)行ニ轉ノ分ル、トノ三様ニ過キズ其

同行ニ轉ノ分ル、ハ(か)行ニテハ解ク解くる(は)

行ニテハ添ふ添ふ(ら)行ニテハ折る折るノ

類(き)行ニ轉レテ分ル、ハ乾く乾クを起くる起

を逃くる逃グを落つる落をノ類(ら)行ニ轉ノ分

ル、ハ下(下)を下(下)免を免る(別)く(分)るノ

類ナリ自他動詞中用格ノ最誤リ易キハ同行ニ

轉レテ分ル、モノトス例ハ是物ヲ被物ニ添

自他ノ誤

本文ノ外尚舉  
クレハ  
物ヲ換ヘテ  
物ヲ換ヘテ  
道ヲ違ヘテ  
道ヲ違ヘテ  
書ヲ讀ミテ  
書ヲ讀ミテ  
物ヲ傳ヘテ  
物ヲ傳ヘテ  
物ヲ給ヒテ  
物ヲ給ヒテ

ハスルハ他動詞ナレバ必ズ添へ添ふトセズ  
バアラヌヲ添ひ添ふトシ冠ヲ追ヒ退クルハ他  
動ナレバ必ズ追ひ退け追ひ退くるトヒズハア  
ラヌヲ追ひ退くトスルガ如シ今其尤<sup>キ</sup>ケキモノ  
ヲ舉ゲテ例ヲ示サバ

犬で追ひ退くる人ヲ犬で追ひ退く人ト云ヒ

敵で打ち伏せし者ヲ敵で打ち伏せし者ト云ヒ

家で建つる人ヲ家々 かつ人ト云ヒ

心で苦むる者ヲ心で 苦むる者ト云ヒ

軍で進む者ヲ軍で 進む者ト云ヒ

物で添へ或添ふ<sup>ル</sup>ヲ物で添ひ添ふト云ヒ

ルガ皆是レナ

道で違へ或違ふ<sup>ル</sup>ヲ道で違ひ違ふト云フ

が如キハ他動詞ニス可キヲ自動詞ニ誤リ用井

タルナリ 總マ何<sup>レ</sup>ト云ハ 皆他動詞ニスバレ

自ら 砕くる人ヲ自ら 砕く人ト云ヒ

枝ガ 折る樹ヲ枝ガ 折る樹ト云ヒ

物ガ 添ひ添ふヲ物ガ添へ添ふト云ヒ

道ヨ 違ひ違ふヲ道ヨ違へ違ふト云フ

カ如キハ自動詞ニスベキヲ他動詞ニ誤リ用井

タルナリ

右ノ自他活用圖ニ據レバ他動詞ノ第三ハ皆下

二段<sup>キ</sup>行ト<sup>マ</sup>行トニ轉シテ<sup>キ</sup>及<sup>キ</sup>及<sup>キ</sup>む

第三他動及受  
動詞ノ活用

言林抄

卷上

甲六

金澤堂

るせくあつたナリ受動詞ハ皆下二段〔ら〕行ニ轉  
 シテるく及らるゝトナルハ自ラ一定ノ格ニ從  
 ノモノナリ、ソハ四段ノ諸活語及ビ往着似見ハ  
 ハ皆左ノ第一圖ノ如ク活キ一段、中二段、下二段  
 ノ諸活語及ビ来為ハ皆左ノ第二圖ノ如ク活キ  
 テ他動詞第三トナリ四段ノ活語及ビ有往ハ第  
 三圖ノ如ク活キ一段中二段、及ビ来為ハ總テ第  
 四圖ノ如ク活キテ受動詞トナルナリ

第一圖	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令

三段活用ナル  
 為ハ第二圖ニ  
 活キせさせ  
 させさせ  
 故ニ字音ヨリ  
 来レル論比ノ  
 類及ヒ體ニ  
 リ来レル重ん  
 び、輕んび  
 關ニ於テ欲モ  
 るノ類モ皆此  
 ニ屬スベシ

第二圖	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令

第六章 形狀言ノ活用

凡形狀言ノ活用ニ二種ノ別アリ第一ハ深く深  
 一深き深々れ空一く空一き空一く空一活ラク  
 モノニノ所謂く一き去く去一きノ活用是ナリ  
 第二ハ深く深々一深々一深々一深々一深々一



盛あらん盛あらん盛あらん活ラクモノ是ナリ

第一種ハくーきノ活去く去ーきノ活及ビけく  
けーノ活ノ三様ニ別ル是レ形状言活用ノ本態  
ニノ甲ト乙ハ體言合體言截斷言連體言連用言  
及ヒ已然言ノ六種ヲ爲シ丙ハ體言截斷言連體  
言連用言ノ四種ヲ爲ス左圖ニ示スガ如一

此截斷言連體  
言ニ亦用言ノ  
如ク助辭ヲ受  
クルト左ノ如  
シ

く	深	一轉	體言	合體言	截斷言	連體言	連用言	已然言
浅	ふ	二轉	田	田	田	田	田	田
あ	さ	二轉	さ	さ	さ	さ	さ	さ
あ	さ	二轉	さ	さ	さ	さ	さ	さ
あ	さ	二轉	さ	さ	さ	さ	さ	さ
あ	さ	二轉	さ	さ	さ	さ	さ	さ

く	堅	き	淡	猛	活	可	空	水	同	安	亮	鮮
く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く
く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く
く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く
く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く
く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く

世ニ截斷ノ  
ヨリ直ニ體言  
ハツ、クハ稍  
他ノ例ト異ナ  
ルヲ以テ彼ノ  
引ノ山ノ  
尾の永長

夜マひくく  
もねんト云フ  
歌ノ永長夜  
ヲホクく一夜  
トヨムハ誤リ  
ナレバホクき  
長夜トヨムハ  
シト云ヘル人  
モアレドソハ  
山ノ葉ニ用  
言ナルさき竹  
から葉去ら  
尾くまきノ活  
ナルおつ夜  
録のさ  
如可憐ト同  
格ナリト説カ  
レタルニテ其  
却テ非ナルヲ  
知レベキナリ

ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
活	平	活	平	活	平
たひま	たひま	たひま	たひま	たひま	たひま
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

圖中第一轉ハ深ハふウみふウさノ如ク淺ハ  
さみあさノ如ク空ハむあノみあノさ永長  
ハふウくまみあウくノさ亮ハさやけみさやけ  
さノ如クみ或ハさ字添ハリテ體言トナル第二  
轉くノき及ビまきノさハふウ田ノさ瀬ウ  
木むあノ烟あぐノ夜あノ人ト各一箇ノ體  
言ヲ取リテ合體言トナルけくけノハ此轉ニハ  
活用ナレ第三轉くノきハウさノくノまき  
ノきハむあノさぐノけくけノハウきらけ

世ニ行志ノ如  
ク志ノ如ク  
トナト云フ人  
アリ志ニキ誤  
ト云フハ  
如此言ハ皆  
ノかふノ  
ト云フマ  
第一種ノ形状  
言ノ第五轉ハ  
用言ヲ形容ス  
ルモノ(即副詞)  
ニノ其他ノ諸  
轉皆體言ヲ形  
容スルモノ(即  
形容詞)ナリ  
第二種ハ第一  
轉ヲ除クハ皆  
體言ヲ形容ス

さやけノト各志モビヲ取リテ截斷言トナリ第  
四轉ハふウき田ノさき瀬ウノき木むあノき烟  
あぐノき夜ウきらけき御代のとけき春ノ如  
ク體言ニ續キテ連體言トナリ第五轉ハ  
考ウノさき見ウノくノ鍊るむあノ費  
ふぐノ述ウノやウノけノ思ふさやけノ見  
ウノ如ク用言ニ續キテ連用言トナリ第六轉  
くノき去くまノきハふウガヲれをむあノれ  
ノ如クをどどもノ助辭ヲ受ケテ已然言トナル  
第二種ハ形状言活用ノ變態ニシテ第一種ノ連  
用言ノ有ト合ノ活用スルモノト形状言ノ及

ルモノナリ

トヲ帶ブルモノ、有ト合ノ活用スルモノトノ  
三様アリテ各將然言截斷言連用言及ヒ已然言  
ノ四轉ヲ爲ス一左ノ圖ノ如シ

有字		連用言	一轉
一第	無		
深 <sup>ス</sup>	同 <sup>ト</sup>	く	一轉
堅 <sup>カ</sup>	空 <sup>ク</sup>	く	二轉
空 <sup>ク</sup>	同 <sup>ト</sup>	きんぬで	三轉
同 <sup>ト</sup>	無	つるきしん	四轉
無	同 <sup>ト</sup>	物事らん	五轉
同 <sup>ト</sup>	無	たれども	六轉

四段ノ活			
三第	二第	一第	明
昭 <sup>シ</sup>	亮 <sup>リ</sup>	鮮 <sup>セン</sup>	明 <sup>メイ</sup>
と	よ	て	
き	き	て	
なら	あ	で	
きんぬ	まんぬ	で	
な	あ		
き	き		
物事	物事		
たれ	ふれ		
ども	ども		
たれ	ふれ		

圖中第一轉ハ皆連用言ニノ第一ハ第一種ノ第  
五轉ト異ナラズ第二第三ハ第一章ニ舉グル所

五轉ト異ナラズ第二第三ハ第一章ニ舉グル所

ノよ及ビトク帯ブル形状言ナリ  
 第二轉以下ハ皆第一轉ノくよとニ有ト云ヘル  
 用言ヲ如ヘテくト何ノ巧ト合メカトナリ  
 トわろノわト合メホナリト何ノ巧ト合  
 ノたトナリテかろありちろトナルヲ四段活  
 用ノ模様ニ活キテからんかろかるかれあらん  
 ありあろふれたらんたろたれトナルナ  
 リ

第七章 言語ノ起結

凡言語文章ヲ綴ラントスルニハ必ず起語ト結  
 語ノ關係ヲ明カニセサル可カラズ

起語トハ即主格體言ノ助辭ニシテ梅は(薰る)我  
 も(聞ク)彼ぞ(勝れる)鶯の(鳴く)月や(有らぬ)年こ  
 そ(老也)れ等ノはもそのやこそ及ビ何(誰)何孰ノ  
 類ノ總稱徒(梅)はナドノはヲ略シテ體言ノミナ  
 ルモノヲ合ノ八格トス

結語トハ即一句ノ末ニ在リテ起語ノ意味ヲ結  
 ビ止ムルモノヲ云フ例へば(彼)ぞ(勝れる)鶯の(鳴  
 く)梅は(薰る)我も(聞ク)ナドノ薰る勝る聞け

クノ如キ其數甚多シ之ヲ大別シテ用言形狀言  
及助辭ノ三種トス而ノ其三種各方然言連體言  
已然言ノ三般トナリ方然言ハはも徒ノ起語ヲ  
結ビ連體言ハズノや何ノ起語ヲ結ビ已然言ハ  
ことノ起語ヲ結ブ今起結ノ略例ヲ舉ケ以テ其  
關係ヲ示ス一左ノ如シ

起

は

水の性は低きよ從ふ  
鶯の聲は朝毎よ聞く  
今の孝も是れ能く養ふや謂ふあり  
その後は功夫で用ゐること太よ易きや

覺えたり

秋霧の晴るるを喜れり

易の一書を尊信して以て萬世不刊の經  
と為るべし

も

時よ項羽も亦西楚の霸王と稱し高祖と  
戦ふ

管氏も亦樹て門で塞げり

徒

藤堂高虎領國阿野津よて俄よ勢揃せし  
れり

匹夫志で奪ふ可くごらあり

曹丕終よ獻帝の位で篡ひ後漢で亡く國

名で魏と改む

ぞ 是ぞ寛平の御遺誠とてソ

カハ小野川より谷風ぞ勝れる

耶蘇の教ハ此時よりぞ盛らんよ行われ

たも實よ銅で化して黄金と爲せりとぞ

言ひら

遂よ成就の地位よぞ到る可き

山うくを春の霞ぞ恨めしき

の 白雪のかくれぬ枝よ鶯の鳴く

梅の匂ひの袖よとまわれ

や 花あき里よ住や習へる

九重よ霧や隔つる

大和あでし色やうもわれ

何 孰か能く之で大ありと為る

何やう義とソ

何ぞ人で欺く

こそ 瞬息の時こそ怨よせざる可われ

義で以て欲よ克たんとこそ望まらるれ

将門ハ檢非違使でこそ望みたれ

我身こそうあしき物と思ひ知りぬれ

心こそ矢竹よもやれ

恣よ樂みらるこそ無道ふれ

泪のみこそ下よ流るれ

若菜ハ摘まで年でこそ積め

左ノ圖ヲ以テ尚其況則ヲ知ルヘシ

用										
活		段			四					
讀	思	打	寫	聞	方然言	はも徒	人	物	事	こそ
む	ふ	つ	そ	く	連體言	そのや何				
め	へ	て	せ	け	已然言					

言										
活ノ段三		言然已活段四								
起	死	爲	來	入	讀	思	打	寫	聞	入
く	ぬ	そ	く	れ	め	へ	て	せ	け	れ
る	ぬ	そ	る	れ	め	へ	て	せ	け	れ
れ	ぬれ	それ	くれ	きれ	めれ	へれ	てれ	せれ	けれ	れ

言

去		活 段 一					活 二			
深	居	射	見	干	似	着	飢	枯	消	進
	ゐる	ゐる	みる	ひる	よる	きる	うる	る	ゆる	む
	ゐる	ゐる	みる	ひる	よる	きる	うる	る	ゆる	む
	ゐれ	ゐれ	みれ	ひれ	よれ	きれ	うれ	るれ	ゆるれ	むれ

用

段 二 下					活 二 中					
替	尋	出	合	受	得	懲	老	怨	強	落
ふ	ぬ	つ	そ	く	う	る	ゆる	む	ふ	つ
ふ	ぬ	つ	そ	く	う	る	ゆる	む	ふ	つ
ふれ	ぬれ	つれ	それ	くれ	うれ	るれ	ゆるれ	むれ	ふれ	つれ



助 辭										
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸
不	不	見	来	也	於	而	為	昭	礫	蒸

五十六  
助 辭

言 狀 形										
段 四			活、望、望			活、望、望			活、き	
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無
蒸	威	明	露	亮	明	同	發	空	可	無

言 狀 形

語格指南卷上 終

		辭 助							
		用 活 段 二 字 將					竟	去	
		覺	將去	將	將	將	將	竟	去
	ま ら	ん	ん	ん	ん	ん	ん	つ	ぬ
か あ	ら	ん	ん	ん	ん	ん	ん	つ る	ぬ る
アの ノ ミ	此 ニ 結								
	ら め	め	め	め	め	め	め	つ れ	ぬ れ

